

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①：学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

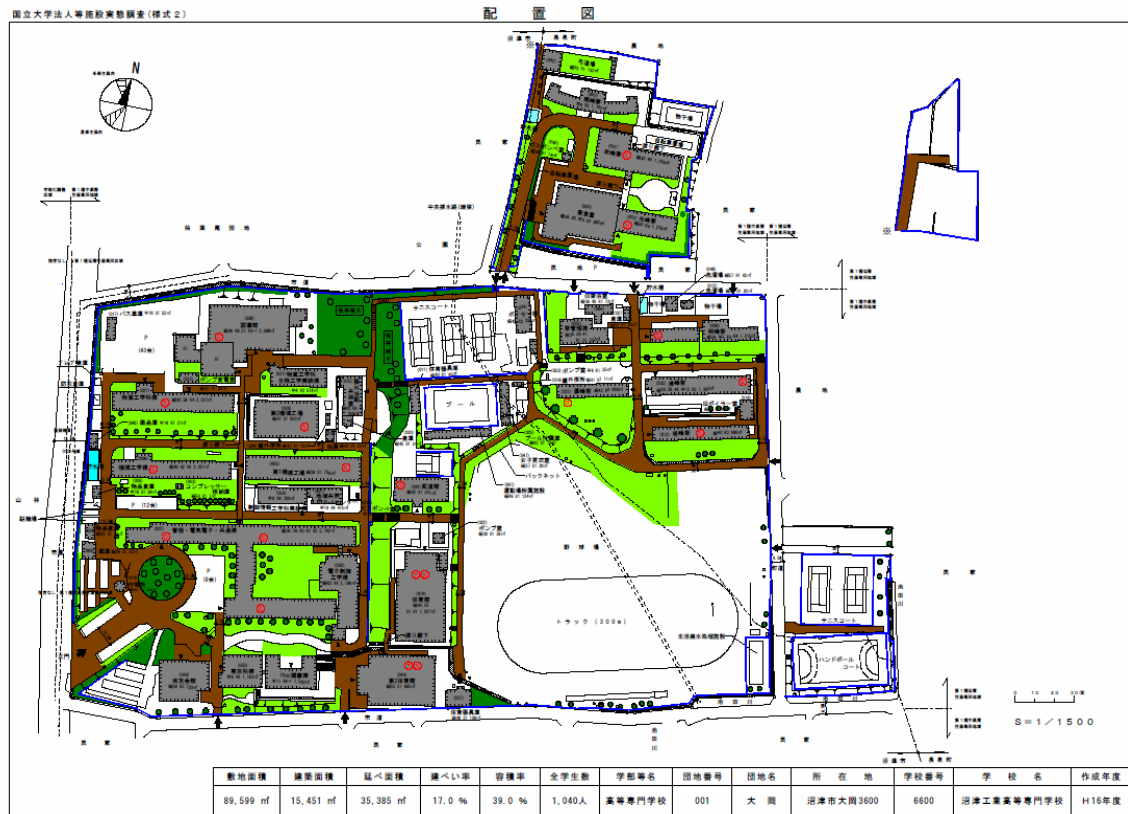
(観点に係る状況) 本校の施設概要は、資料 8-1-①-1、資料 8-1-①-2 に示すとおりであり、校地、各種施設など高等専門学校設置基準の第 6 章「施設および設備等」の条件をほぼ満足している。また、施設・設備は、平成12年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に整備・充実が図られている（資料 8-1-①-3）。

本校では、各教室及び実験・実習室、演習室、研究室、運動場、図書館（資料 8-1-①-4）などの一般的な施設のほか、総合情報センター（資料 8-1-①-5）とマルチメディア教室（資料 8-1-①-6）が整備され、それぞれ情報処理学習と語学学習に効果を発揮している。また、全教室には、ビデオ付きテレビと、LCD/OHP 投影用スクリーンが設置されており、特に 4 年生教室には、天井吊下げタイプの LCD プロジェクタが設置され、パソコンやビデオを用いた授業が簡単にできる環境を提供している。さらに、梅雨時や夏季などの学習環境を改善するために、全教室にエアコンが設置されている。

また、本校には機械実習工場が設置されている（資料 8-1-①-7）。機械実習工場は 1・2・3 学年次の機械工作実習教育用以外に、卒業研究及び教員研究用実験装置の製作等にも対応し、CAD/CAM/DNC を基盤にした最新鋭の数値制御工作機械などが設置されている。5 名の専任技術職員と教員とが連携して、全設備が学習内容に有機的に活用されている。本工場は機械工学科の学生だけでなく、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科の学生に対しても機械工学の基礎教育用施設として利用されている（資料 8-1-①-8）。

平成14年度に、施設整備計画委員会において、全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査を行い、その結果が施設の点検・評価報告書にまとめられている（資料 8-1-①-9）。その報告書によれば、身障者対応施設の不備など若干の問題点とそれへの改善案が示されているが、施設・設備に関しては概ね有効な利用が図られているといえる（資料 8-1-①-10）。

資料 8-1-①-1：施設配置図



(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-2：設置基準必要面積と保有面積の比較

必要面積・保有面積比較 (基準面積表調査单位名称により算定した場合) (H16.5.1現在)

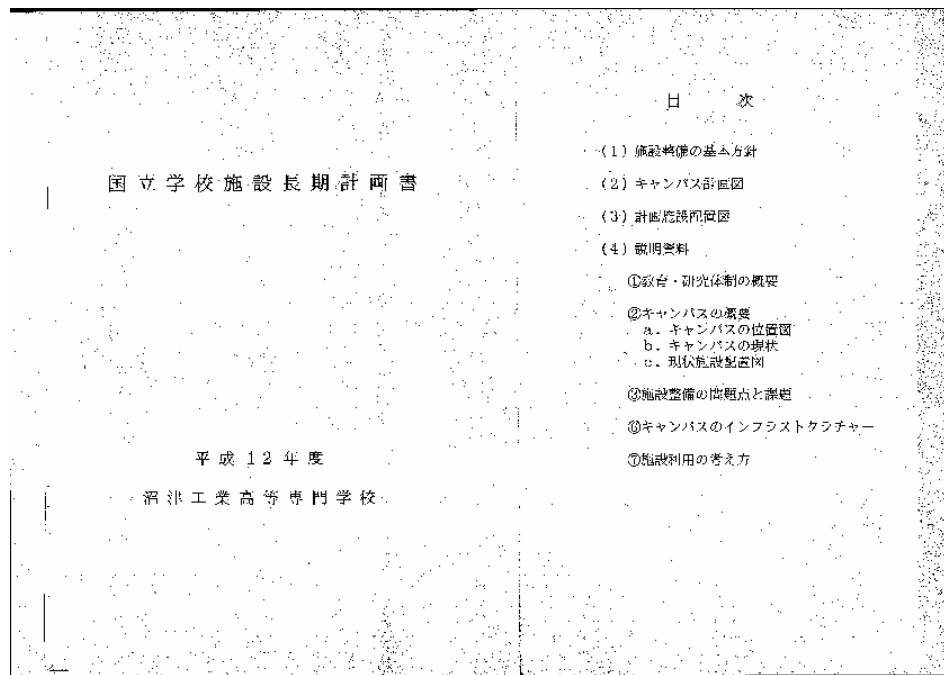
調査単位番号	調査单位名称	基準面積	保有面積	不足整備面積	備考
7010	工業高専校舎	16,700	16347	353	
7110	高専管理部	1,340	1706	-366	
7210	高専図書館	1,600	1565	35	
7310	高専屋内運動場	2,100	2370	-270	
7410	高専福利厚生施設	1,546	1269	277	
7510	高専寄宿舎	10,296	10281	15	

必要面積・保有面積比較 (現在では基準面積表調査单位名称が細分化されました。(H16.5.1現在))

調査単位番号	調査单位名称	基準面積	保有面積	不足整備面積	備考
7010	工業高専校舎	16,700	16347	353	
7110	高専管理部	1,340	1706	-366	
7120	高専一般管理施設	0	43	-43	
7210	高専図書館	1,600	1565	35	
7310	高専屋内運動場	2,100	2370	-270	
7320	高専屋内運動場附属施設	0	285	-285	
7410	高専福利厚生施設	1,546	1269	277	
7510	高専寄宿舎	10,296	10281	15	
7610	高専電算機施設	0	444	-444	
7710	高専学内共用施設	0	415	-415	
7810	高専渡り廊下	0	30	-30	
7910	高専設備室	0	630	-630	

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-3 : 国立学校施設長期計画書 (表紙と目次)



(出典：沼津工業高等専門学校 国立学校施設長期計画書 平成12年度)

資料 8-1-①-4 : 図書館の整備状況

昭和45年新築 鉄筋コンクリート造2階建 1,645 m²
 主な部屋 閲覧室 396 m² 視聴覚室 205 m² 第2視聴覚室 78 m² セミナー室他 146 m²
 書庫他 193 m²
 閲覧隻数 100席 検索端末2台
 開館時間 平日 8:30-20:00 土曜日 10:00-15:00

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-5 : 総合情報センターの整備状況

昭和46年度 鉄筋コンクリート造2階建 146 m²
 昭和49年度 鉄骨増平屋建 (増築) 148 m²
 昭和46年度 鉄筋コンクリート造2階建 (増築) 150 m² 合計 延面積 444 m²
 主な部屋 電子計算機室 60 m²
 第1演習室 96 m² (学生卓 46席) 第2演習室 86 m² (学生卓 24席)
 オンライン実験研究室 56 m² 教官室等 146 m²
 開館時間 平日 8:30-17:00

(出典：会計課施設係)

資料 8-1-①-6 : 語学学習のための施設 (マルチメディア教室) の整備状況

MM 教室	1 室	120 m ²	
LL 装置	学生卓	46 席	1 式
入力装置	VTR, LD, DVD, パソコン, オーバーヘッドカメラ, カセットテープ		
出力装置	プロジェクタ, モニターTV		

(出典 : 会計課施設係)

資料 8-1-①-7 : 第 1 機械工場の整備状況

第 1 機械工場

昭和 39 年新築	鉄骨造平屋建	759 m ²	
主な部屋	鑄造実習室 115 m ² 鍛造実習室 83 m ² 溶接・板金・手仕上げ 177 m ² 塑性加工室 34 m ² 共同工作加工室 38 m ² , 創造設計演習室 109 m ² 他		
実習時間	平日		

第 2 機械工場

昭和 47 年新築	鉄骨造平屋建	603 m ²	
主な部屋	工作機械工場 373 m ² , 機械工作実験室 77 m ² 蒸気原動機実験室 77 m ² 他		
実習時間	平日		

(出典 : 会計課施設係)

資料 8 - 1 - ① - 8 : 機械実習工場の授業利用状況

File Edit View Go Bookmarks Tools Help

http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/kojo.html

Red Hat, Inc. Red Hat Network Support Shop Products Training

実習安全教育

実習テーマ一覧

(平成17年度)

- 機械工学科 1年 前期 後期
- 機械工学科 2年 通年
- 機械工学科 3年 前期 後期
- 機械工学科 4年 通年
- 電子制御 工学 2年 後期
- 電気電子 工学 3年 前期
- 制御情報 工学 4年 後期
- 物質工学科 5年 前期

実習安全教育

STAFF紹介

- 佐藤 一 安
- 河野厚志
- 船本和重
- 内野 拓
- 中川秀則

一般心得

1. 正しい服装で自分の身なりをきちんと整えること。身なりが整えば自然に心も引き締まる。緊張した心で実習を行えば、技術の向上があるのみでなく、怪我をすることも無い。
2. 規律を重んずること。
3. 実習工場の発展は自己の幸せになることを知り、時間や品物を無駄にしないこと。
4. 油断は災害のもと、不注意は過失のもと、怠慢は失敗のもととなることを十分に心がけること。
5. お互いに礼儀を守り、他人をそしめることのないようにすること。
6. 材料や作品の上に乗ったり跨いだりしないこと。
7. 危険な箇所を発見した時は直ちに注意し合うこと。
8. 工場内を走らないこと。
9. 配電盤等に触れないこと。
10. 長時間の実習によって疲れても、機械等にもたれたりしないこと。
11. 工場内では携帯電話等の電源を切っておくこと。

実習作業全般における注意事項

1. 機械類のベッド等をふき、注油箇所には指定の油をさすこと。
2. 実習中無断で機械から離れぬこと。止むを得ず離れる場合には指示を受け、必ず機械を停止して離れること。
3. クラッチやギヤの掛け外しは停止してから行うこと。
4. 図面を良く読み、寸法及び注意事項を見誤らないようにすること。
5. 寸法を測る場合は、機械を止めること。
6. ワークをはずす前に切削屑等を払うこと。
7. ワークや工具の取り付けのゆるみやガタに注意すること。
8. 切り込みをうけるときは、必ずはしを掛けたまま、機械を止めたい。

http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/anzen.html

(出典：本校機械実習工場ウェブサイト)

http://www.kikai.numazu-ct.ac.jp/kojo/kojo.html

資料 8-1-①-9 : 教育・研究設備評価結果

施設の点検・評価報告書

平成 15 年 3 月 24 日

沼津工業高等専門学校
施設整備計画委員会
施設の点検・評価に関する専門部会

4 問題点と改善案

・現地点検の結果による問題点及び改善案については、各点検・評価表(別添資料 2)にも記載してあるが、主な問題点と改善案は、次表のとおりである。

(主な問題点と改善案)

点検・評価項目	主な問題点	改善案
土壌・環境ゾーン (土壌の利用状況・動線・ 風外環境)	・構内道路に安全性標識が少ない ・駐車場及び駐輪場が不足 ・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
インフラストラクチャー (電力・通信・情報・給排水・ガス・冷暖房等)	・トランスが過負荷(管理棟) ・排水処理施設が老朽化顯著	・今後の施設整備の重点課題とし、早急に改善を図る。
教育・研究施設	(他に改善を要する箇所なし)	
建物の管理	・一部耐震診断未実施(平屋建分)	・早急を実施を図る。
課外活動施設	・文化系の部室が不足	・全体計画の見直しにより、整備改善を図る。
福利厚生施設	・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
管理部門施設	・身障者対応施設が整備不足	・同上
防災施設	・現時点では、早急に改善を要する箇所は見当たらないが、より安全性を図るため、継続的な点検及び運用が必要である。	
地域開放等	・地域開放スペースが未整備 ・身障者対応施設が整備不足	・今後の施設整備の重点課題とし、計画的に実施改善を図る。
国際交流	・外国語の案内表示が未整備	・同上

- 4 -

(出典：施設の点検・評価報告書，平成15年3月)

資料 8-1-①-10 : 教育・研究施設・評価表 (部屋別) 抜粋

教育・研究施設点検・評価表 (部屋別)

建物名称 電子制御工学科棟 棟番号 050

頁番号	部屋番号	階	学科等名	用途				使用者					基準面積	①狭隘		②利用頻度		③快適性		評価		
				部屋名称	大分類	中分類	小分類	室面積	教官	事務	学生	専攻科		留学生	計	床面積÷基準面積×100%	実使用面積m ² /人(合計)	評価	利用率		評価	暖房
6	1	1	電子制御工学科	玄関	B	5・6・8	ウ・エ		○	○	○	○	○			(16.18)	C	A8	C	無 不要	無 不要	C
6	2	1	電子制御工学科	制御工学実験室1	A	1・2	ア	37	1				1	30.0	123.3	(17.18) 19.82	C	A8	C	有 個別	有 個別	A
6	3	1	電子制御工学科	電子制御実験室1	A	1・2		35	1		5	1	7	30.0	116.7	(16.52) 2.64	C	A8	C	有 個別	有 個別	A
6	4	1	電子制御工学科	教官室	A	1・2		71	1		4	2	7	30.0	236.7	(18.88) 7.45	C	A8	C	有 個別	有 個別	A
6	5	1	電子制御工学科	基礎工学実験室	B	2	エ	106			21		21	138.6	76.5	(35.04) 3.38	C	②	C	有 個別	有 個別	A
6	6	1	電子制御工学科	情報処理演習室	B	3	ウ	136			45		45	148.5	91.6	(43.50) 2.06	C	B⑤	C	有 個別	有 個別	A
6	7	1		女子便所				7									C		C			
6	8	1		男子便所				12									C		C			
7	1	2	電子制御工学科	教室(D3)	B	1	エ	72	1		41		42	82.0	87.8	(14.92) 1.36	C	B5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	2	2	電子制御工学科	教室(D4)	B	1	エ	71	1		40		42	80.0	88.8	(14.44) 1.35	C	B5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	3	2	電子制御工学科	リフレッシュ室				35	16				16	32.0	109.4	(9.48) 1.60	C	B	C	有 中・H5	有 H5	A
7	4	2	電子制御工学科	教室(D5)	B	1	エ	72	1		42		44	84.0	85.7	(14.92) 1.30	C	B5.4⑥	C	有 個別	有 個別	A
7	5	2	電子制御工学科	基礎制御実験室	A	1・2	ア・エ	91	1		1		3	30.0	303.3	(32.43) 19.52	C	A10	C	有 個別	有 個別	A
7	6	2	電子制御工学科	教官室	A	1・2	エ	45	1		5		6	30.0	150.0	(17.30) 4.62	C	A	C	有 中・H5	有 H5	A
7	7	2		女子便所				7									C		C			
7	8	2		男子便所				12									C		C			
8	1	3		教室				72									C		C			
8	2	3	電子制御工学科	学生実験室3 (電子制御実験室)	A	1・2	ア	72	1		4	2	7	30.0	240.0	(25.47) 6.65	C	A10②	C	有 H10	有 H10	A
8	3	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	21.00	C	B8	C	有 個別	有 個別	A
8	4	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(5.95) 15.05	C	B③	C	有 H14	有 H14	A
8	5	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(4.00) 17.00	C	B8	C	有 個別	有 個別	A
8	6	3	教養科	教官室	A	1	ア	21	1				1	30.0	70.0	(9.04) 11.96	C	B8	C	有 個別	有 個別	A
8	7	3	電子制御工学科	電子制御実験室Ⅲ	B	2	エ	94			40		40	264.0	35.6	(23.53) 1.76	C	B④	C	有 中央	無	A

(出典：施設の点検・評価報告書，平成15年3月)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。本校の施設・設備は、長期計画に基づき整備され高専設置基準をほぼ満たしており、平成15年度に本格的な点検評価が行われ、身障者対応施設の不備など若干の問題点が指摘されているが、ほとんどの施設・設備は、有効に活用されていることが確認されている。

観点 8-1-②：教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 本校は，光ケーブルとレイヤ3スイッチによるギガビットの校内LAN(ローカルエリアネットワーク)が構築されており(資料8-1-②-1)，校内全域から総合情報センター等に設置されている各種サーバを利用することが可能であり，ネットワーク利用の基本ルール(資料8-1-②-2)のもとに教育・研究に活発に利用されている。また，本校LANは，ファイアウォールを介して8Mbpsの専用回線でインターネットに接続され，教育・研究に活発に利用されている(資料8-1-②-3)。また，現時点では部分的ではあるが，図書館や一部の学科で無線LANによるネットワーク接続環境を整備し，学生の利用の便宜を図っている。

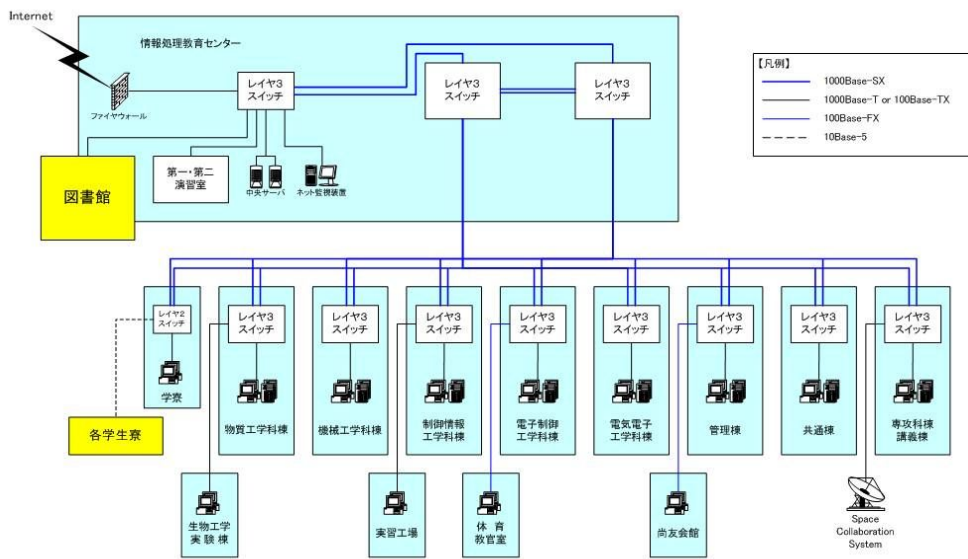
総合情報センターでは，2つの演習室に計75台のPCを設置し，1年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報処理教育を行っている。2年次以降においても各学科の専門科目に関連した情報処理教育を実施し，本校の教育目標の一つである「情報処理に強い技術者」の育成に中心的な役割を担っている。センターの情報処理演習室の授業での利用は，前後期とも毎週32時間におよんでいる(資料8-1-②-4)。総合情報センターのサーバおよびPCは，4～5年に一度システムのリプレースを行って，最新のハードウェア・ソフトウェア環境を提供している。また，教養科ではマルチメディア教室に46台のPCを設置し，英語のリスニングの授業だけでなく，政治経済，地理情報学などの授業に利用されている。

学生のコンピュータ・ネットワーク利用環境整備は，それぞれの専門学科においても進められている。現在4つの学科が独自に情報処理演習室を持ち，計123台の情報端末を保有しており，工学実験でのレポート作成，コンピュータ関連の演習，さらに専門のアプリケーションによるシミュレーションや設計などの授業で利用されている(資料8-1-②-5)。さらに，卒研室や実験室にも，370台を超えるパソコンが設置され，卒業研究や学生実験で利用されている。また，学生寮にも，各棟にコンピュータルームが用意されインターネット利用可能なPCを配置し，寮での学習の便宜を図っている。

セキュリティ管理を含む校内LANの管理は，資料8-1-②-6に示すように，校内LAN運営委員会を意思決定機関として，ネット管理グループ(基幹LAN管理者)と学科・事務を単位とする支線管理者に管理運用されている(ただし，平成17年度より，総合情報センターにその役割が引き継がれている)。

具体的なセキュリティ対策としては，インターネットと校内LANの境界にファイアウォールを設置し，学外から学内のサーバのアクセスは明示的に許可したホストとサービスのみとすることで，学外からの不正侵入の危険性を最小限にとどめている(資料8-1-②-7)。さらにアクセスログの管理により不正アクセスに関する調査を可能にしている。また，ウィルス検知・駆除ソフトをサイトライセンスとして一括購入し，ネットワーク接続された全情報端末への導入を行っている。さらに，平成16年度の情報センターのシステム更新で，学生用のメールサーバにおいてもサーバベースのウィルス駆除ソフトを導入し(教職員のサーバは平成15年度に導入)，メールによるウィルス感染のリスクを最小化している。なお，情報システムのセキュリティポリシーは現時点では策定されていないが，新たに発足した総合情報センターを中心として，平成17年度中の作成を予定している(資料8-1-②-8)。

資料 8-1-②-1 : 校内LAN構成図



沼津高専情報ネットワークシステム構成図(2002/07)

(出典：NCT-Netウェブサイト)

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/nctnet/open/nctnet/nct-net2.jpg>

資料：8-1-②-2：ネットワーク利用に関する基本ルール

沼津工業高等専門学校ネットワーク利用に関する基本ルール

(利用目的)

本校のコンピュータネットワークは、教育、学術研究及び学校業務における利用を目的とする。

(禁止事項)

次の各号に掲げる一切の行為を禁止する。

1) 法律に違反する行為

日本国法律等に反するネットワーク上での全ての行為。

2) クラッキング行為

パスワードを盗聴すること。

通信内容を盗聴すること。

コンピュータウィルスを意図的に配布すること。

セキュリティーホールを攻撃すること。

アカウントのないホストへ不正侵入すること。

IPアドレス、ユーザ名を詐称すること。

3) 通信を妨害する行為

IPアドレスを不正使用すること。

チェーンメールを発信すること。

その他、通信を妨害する目的で、不要なトラフィックを意図的に流す行為。

4) 人権侵害に属する行為

ウェブサイト、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上へ個人を誹謗・中傷するような内容の記事を発信すること。

相手が不快に思うメールを送ること。

5) 営利行為

ウェブサイト、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上に営利目的の情報を発信すること。

(罰則)

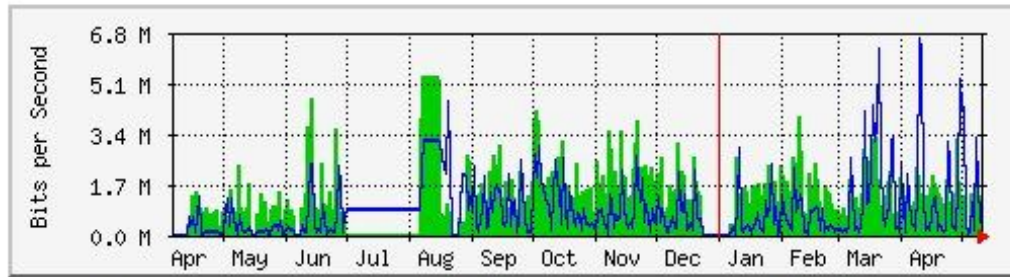
上記2の行為を行った場合は、アカウント停止、剥奪などの罰則を課する。

また、その行為が学則や社会規範に反するようなものである場合は、別途学校による処罰を課するほか、告訴する場合もある。

(出典：平成17年度学生便覧)

資料 8-1-②-3 : 学外回線の使用状況 (平成16年 4月～平成17年 4月)

年間グラフ(1日平均)



最大値 受信: 5398.2 kb/秒 (5.4%) 平均値 受信: 1331.0 kb/秒 (1.3%) 現在値 受信: 1230.1 kb/秒 (1.2%)
 最大値 送信: 6611.8 kb/秒 (6.6%) 平均値 送信: 916.7 kb/秒 (0.9%) 現在値 送信: 308.4 kb/秒 (0.3%)

(出典: NCT-Netウェブサイト)

http://nct.numazu-ct.ac.jp/mrtg/nctr-bb_3.html

資料 8-1-②-4 : 総合情報センター情報処理演習室の使用時間割

前期					
	月	火	水	木	金
1	情報処理基礎	情報処理基礎	情報処理基礎	数値解析	プログラミング
2	C1	E1	S1	M4	E3
3	アルゴリズム	数値解析	プログラミング	情報処理基礎	
4	と	S4	演習	D1	
5		電気電子工学	情報処理基礎	電気電子工学	(文学特論
6		実験	M1	実験	M4)
7		電気電子工学		E3	
8		実験			
9			日本事情		
10			留学生		
後期					
	月	火	水	木	金
1	情報処理基礎	情報処理基礎		データベース	電子計算機
2	S1	E1		S5	M3
3	情報処理基礎	プログラミング	設計製作	情報処理基礎	
4	D1	E3	M4	C1	
5	数値解析	電気電子工学	情報処理基礎	電気電子工学	(文学特論
6	S4	実験	M1	実験	M4)
7		E2	(文学特論	E3	
8			S4)		
9			日本事情		
10			留学生		

() 書きは不定期で利用されるもの

(出典: 総合情報センター)

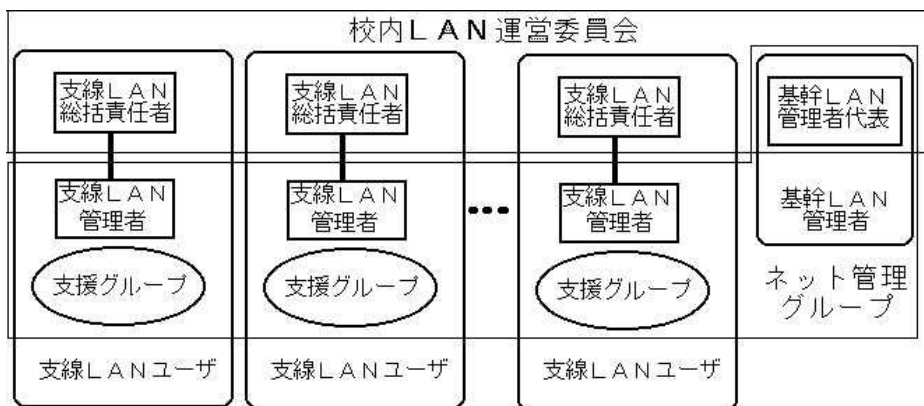
資料 8-1-②-5 : 学科でのコンピュータの整備・利用状況

各学科の学生のコンピュータ利用環境および利用状況(2005年4月現在)

	コンピュータ設置台数		年間単位数	コンピュータ演習室の授業での利用状況
	演習室	研究室等		主な科目
機械工学学科	23	68	6	工学実験
電気電子工学科	25	75	22	情報工学演習、プログラミング演習、計算機シミュレーション
電子制御工学科	45	70	56	工学実験、電子機械設計製作、制御工学、C言語演習
制御情報工学	30	65	36	制御情報工学演習、プログラミング、計算機シミュレーション
物質工学科	-	99	-	--
(計)	123	377		

(出典：総合情報センターネットワーク管理部門)

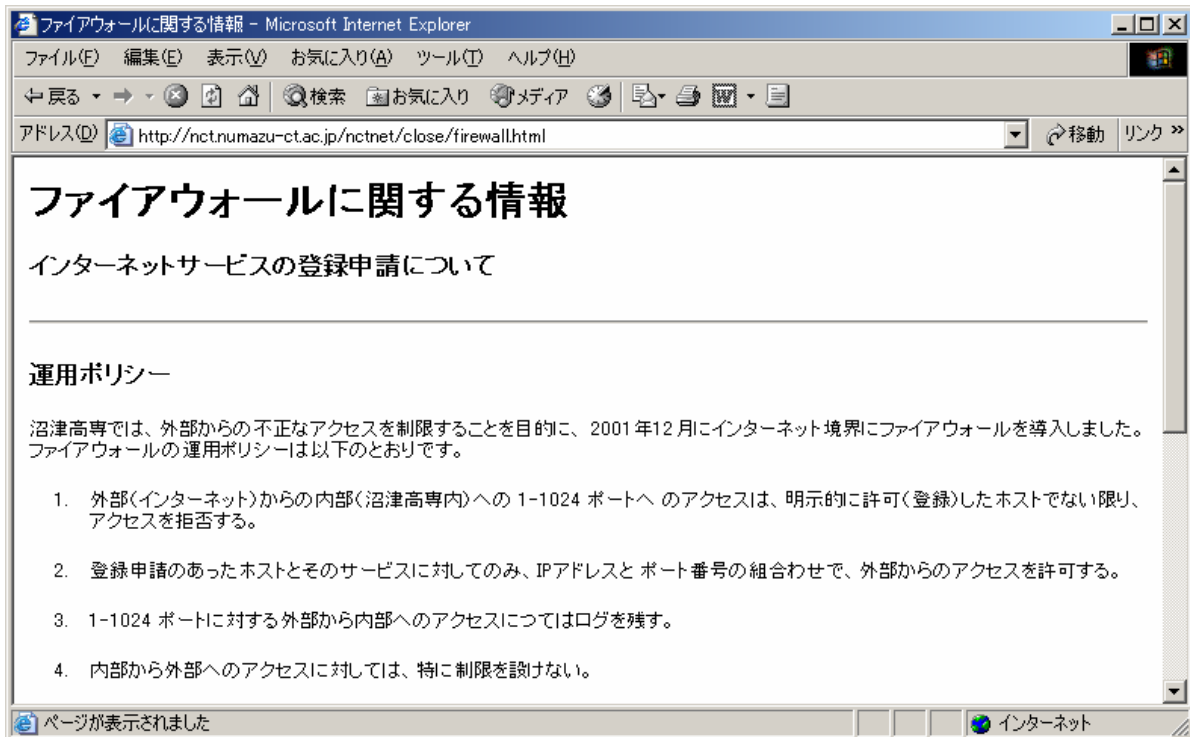
資料 8-1-②-6 : 校内ネットワークの管理体制



(出典：NCT-Netウェブサイト)

<http://nct.numazuct.ac.jp/nctnet/open/netadm.html>

資料 8-1-②-7 : ファイアウォールの運用ポリシー



(出典 : NCT-Net ウェブサイト)

<http://nct.numazu-ct.ac.jp/nctnet/close/firewall.html>

資料 8-1-②-8 : 総合情報センター平成17年度活動計画

2005 年度総合情報センター活動計画 (案)

本校の情報処理に関する業務(教育、事務)を効率的及び円滑に推進するため、また、情報処理技術の新発展にも柔軟に、速やかに対応可能とするために、旧組織(情報処理教育センター、LAN 部門- LAN 運営委員会、基幹ネットワーク管理、SCS、ITWG)等を統括する「総合情報センター」の構想を提案し、2005年3月の統務委員会において、その構想を実現する「沼津工業高等専門学校総合情報センター規則」が認められた。この規則に基づき、「総合情報センター」として今年度の以下のような活動計画を運営会議に提案する。

1 はじめに

今年度は、センターとして2に示すような活動を計画しているが、それとともに新しい総合情報センターの運用体制を次の項目に示したことを考慮しつつ、確立する。

- センターの各委員は、従来と同様に部署の代表の役割を担うとともに情報センターのスタッフ的な活動を要請されるようになった。特に新しく2名の技術職員が、重要なスタッフ的存在として委員に加わることとなった。このスタッフ的な業務、役割分担を明確にする。ただし、専任職員以外は、その本務との関係に注意する必要がある。
- 担当者、責任者あるいは長が交代しても業務遂行に大きな影響の出ないような組織とする。すなわち、特定の職員に恒常的に大きく依存し、また過剰負担とならないような、交代可能な組織を目指す(資料1.0.1)。

2 2005 年度総合情報センターの活動計画(定常的な業務は除く、資料1 : 4p、資料2 : 5p、資料3 : 7p)

2.1 総合情報センターとして

1. セキュリティポリシーの策定(資料1.0.0)
新たな working group 立ち上げにより今年度中に策定
2. 総合情報センターのホームページの立ち上げ
3. 職員の学外の研修会、講習会への参加による技術力向上
4. サブネット管理者である技術職員の職務追加とそれに伴う名称変更検討

2.2 ネットワーク管理部門

1. 部門の体制確立とスタッフの技術力向上

(分析結果とその根拠理由) 優れている。本校は、教育目標の一つとして「情報技術に強い実践的技術者の養成」を掲げており、常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており、総合情報センターおよび各科の演習室、実験室、研究室を合わせて、授業等で利用する十分な数の情報端末が整備されている。また、ネットワーク管理体制も整い、相応なセキュリティ管理がなされている。

観点 8-2-①：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況) 教育研究に必要な図書、学術雑誌は、本校図書館を中心に整備されている。本校図書館の蔵書数は、平成17年3月末現在、74,027冊で、教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく、社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている(資料 8-2-①-1)。

図書館で購入する図書選定は年度始めの図書室運営委員会で行い(資料 8-2-①-2)、随時図書の追加を行っている。この数年の図書の購入冊数は、毎年平均800冊程度となっている。ただし、平成15年度より5000円以上の図書のみを蔵書として扱うように変更したため、それ以降の蔵書追加数は1年に300冊程度となっている(資料 8-2-①-3)。図書以外では、学術専門雑誌13誌、一般及び自然科学雑誌21誌(資料 8-2-①-4)のほか、新聞6紙、白書等の政府刊行物等も自由に閲覧できるようにしている。

図書館業務の電算化により、蔵書は全てバーコード管理され、貸出・返却手続きの効率化が図られ、学生の貸し出し件数は、年間約6500件となっている(資料 8-2-①-5、現在のシステムでは貸出し件数のみが記録され、貸出し冊数は記録されない)。また、図書館には2台の情報端末を設置し、本の検索と貸出し状況のチェックなどを出来るようにしている。さらに、学内のどこからでもウェブサイトでの蔵書の検索が行えるサービスを提供している(資料 8-2-①-6)。

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たすべく、平成16年9月より閉館時間を20時まで延ばした。また、平成16年度末に100席ある閲覧室の一部を学習コーナーとして改装し、自習しやすい環境を提供している(資料 8-2-①-7)。学習コーナーの設置に際しては、導入する机のタイプについて学生にアンケートを行い、その要望を反映したものとした。平成17年4月時点での1日あたり平均入館者数は103人となっている。

また、図書館には、1階に視聴覚教室(1・2)、ゼミナール室(1・2)、共用ゼミナール室が附属し(前出資料 8-1-①-4)、音楽をはじめとする授業、卒業研究などの研究発表会、各種講習会等で活用されている。また、談話コーナー、ホールなども整備され、休み時間等に利用されている。

視聴覚資料として、「プロジェクトX」「電子立国日本」などのビデオを学生課が30本程度保有しており、一部授業などで使われているが、十分に整備・活用されているとは言えない状況である。

また、研究活動をサポートする目的で、長岡科学技術大学の提供する文献検索サービス(Jdream, KANON)、国立情報学研究所の提供する文献検索サービス(GeNii)と文献複写サービス(ILL)を利用できるように、学校単位での契約を行っている。さらに、アメリカ数学協会のオンライン文献システム MathSciNet とも契約している。ILLを利用した文献複写件数は平成15年度が231件、平成16年度が178件となっている。

資料 8-2-①-1 : 図書館の蔵書数

備品図書 単位:冊

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和漢書	4,753	2,264	4,575	3,193	14,633	16,557	325	2,025	2,665	6,982	57,972
洋書	587	414	320	243	9,545	3,234	50	155	783	724	16,055
計	5,340	2,678	4,895	3,436	24,178	19,791	375	2,180	3,448	7,706	74,027
%	7	4	7	5	32	27	0	3	5	10	100

雑誌 単位:種類

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和雑誌	99	3	20	19	47	148	8	5	14	5	365
洋雑誌	7	2	4	3	130	79	0	6	3	1	235
計	106	5	24	22	177	227	8	11	17	6	600

平成17年3月31日現在

(出典：庶務課図書係)

資料 8-2-①-2 : 図書館運営規則 (抜粋)

○沼津工業高等専門学校図書館運営規則

(昭和 46. 6. 1 制定)

最終改正 平成 16. 4. 14

(目的)

第 1 条 この規則は、沼津工業高等専門学校学則第 1 1 条の規定に基づき、沼津工業高等専門学校に図書館を置き、その円滑な運営を図るために必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

(図書室運営委員会)

第 1 0 条 図書館運営委員会に、第 2 条第 2 項の図書室の運営に関する事項を処理するために、図書室運営委員会を置く。

(協議事項)

第 1 1 条 図書室運営委員会は、次の事項を協議する。

- (1) 図書室の運用に関すること。
- (2) 図書室の業務計画に関すること。
- (3) 図書の選定に関すること。
- (4) 図書室の経費に関すること。
- (5) その他図書室に関し必要な事項。

(出典：沼津工業高等専門学校図書館運営規則)

資料 8-2-①-3 : 過去 5 年の新規蔵書数の推移

年度	H16	H15	H14	H13	H12
新規蔵書数	306冊	268冊	692冊	897冊	874冊

(出典：庶務課図書係)

資料 8-2-①-4 : 図書室閲覧図書一覧 (平成17年 4月 1日現在)

専門学術雑誌

No	雑誌名	
1	自動車工学	(M)
2	機械設計	(M)
3	電気計算	(E)
4	トランジスタ技術	(E・D)
5	トランジスタ技術SPECIAL	(E・D)
6	ロボコンマガジン	(E・D)
7	インターフェース	(S)
8	Cマガジン	(S・D)
9	Unix Magazine	(S・D)
10	現代化学	(C)
11	化学工業	(C)
12	化学と生物	(C)
13	数理科学	(D)

一般および自然科学雑誌

No	雑誌名
1	ASCII
2	文芸春秋
3	I/O
4	科学
5	ギネマ旬報
6	暮らしと健康
7	航空ファン
8	monoマガジン
9	ニュートン
10	日経サイエンス
11	週刊朝日
12	新潮
13	新聞ダイジェスト
14	スクリーン
15	数学セミナー
16	生徒指導
17	旅
18	鉄道ファン
19	National Geographi
20	たしかな目
21	Nature

(出典：庶務課図書係)

資料 8-2-①-5 : 図書館貸出し統計

平成16年度利用統計 (利用回数)

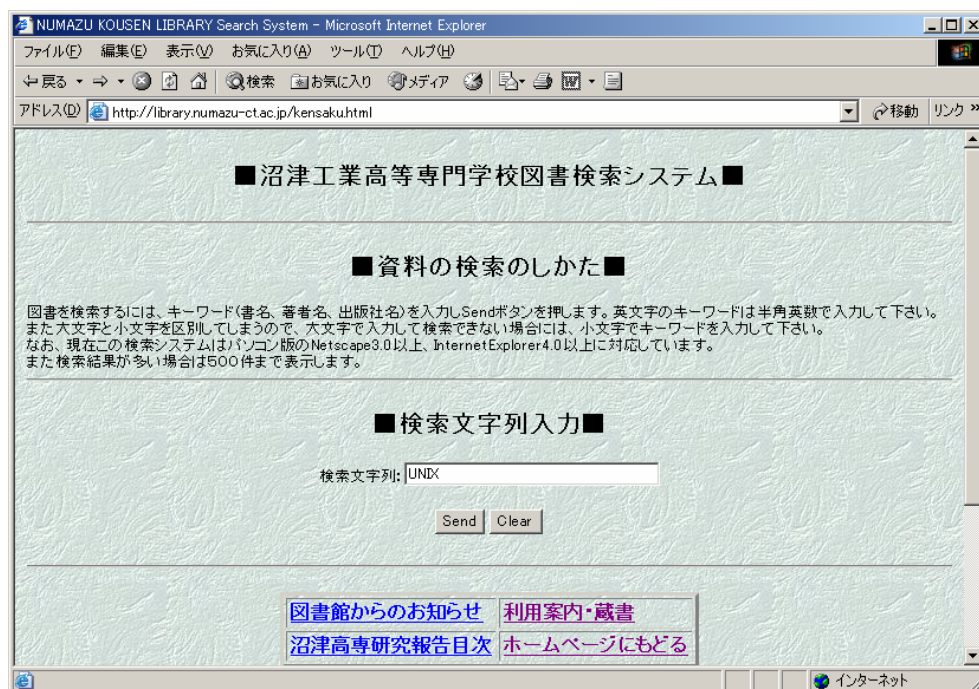
月	学 生	教 職 員	合 計
4	624	450	1,074
5	702	28	730
6	755	24	779
7	606	18	624
8	180	22	202
9	563	73	636
10	725	27	752
11	742	126	868
12	561	100	661
1	595	37	632
2	458	17	475
3	60	14	74
計	6,571	936	7,507

過去5年間の利用統計 (利用回数)

年度	学 生	教 職 員	合 計
12	6,445	9,996	16,441
13	6,408	10,550	16,958
14	5,950	9,652	15,602
15	7,514	447	7,961
16	6,571	936	7,507
計	32,888	31,581	64,469

(出典：庶務課図書係)

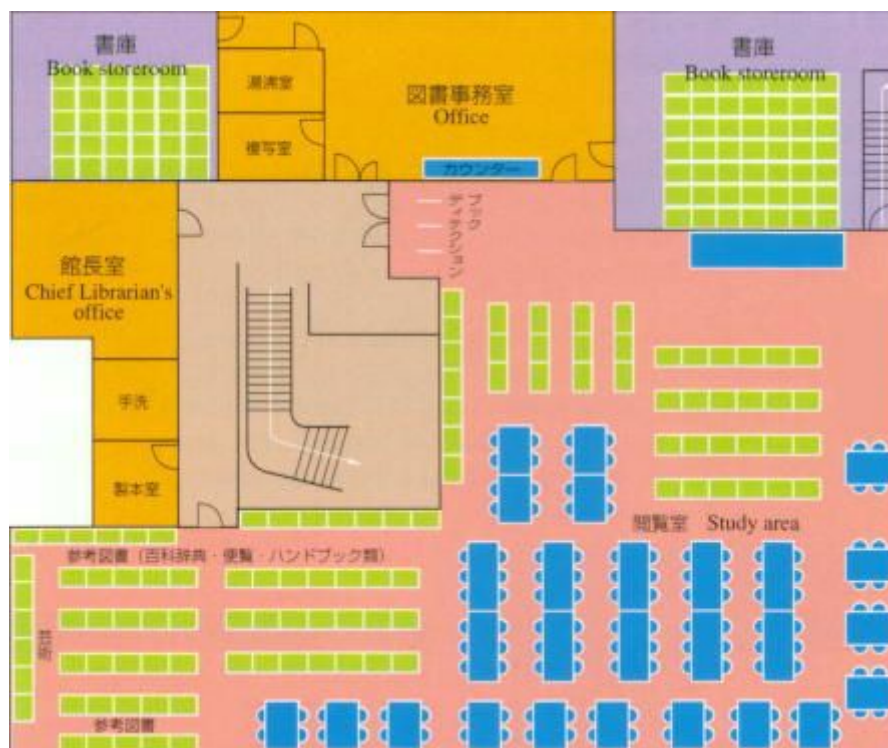
資料 8-2-①-6 : オンライン蔵書検索システム



(出典：図書館ウェブサイト)

<http://library.numazu-ct.ac.jp/kensaku.html>

資料 8-2-①-7 : 図書室配置図



(出典：本校公式ウェブサイト，施設紹介)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/sisetu_frm.htm

(分析結果とその根拠理由) 相応であるが、一部に改善を要する点がある。本校図書館は、約7万4千冊の蔵書を持ち、図書館内の情報端末だけでなくオンラインでの検索システムを提供して学生の利便を図っている。また、閲覧机等設備面にも配慮し、開館時間の延長措置と合わせて、学生が資料を有効活用できる体制を整えており、この点では優れている。一方で、視聴覚資料の配備・充実については十分ではなく、この点に関しては改善を要する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校の施設・設備は現在平成12年に作成された長期計画に基づき整備が続けられており、平成14年度の施設整備計画委員会が行った自己点検において、既存施設・設備は有効に活用されていることが確認された。

学内情報ネットワークの整備は、総合情報センターを中心として常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており、総合情報センターおよび各科での学生のコンピュータ利用環境が十分に整備されている。

(改善を要する点) 教育に必要な視聴覚資料の整備と活用が十分行われておらず、この点では改善を要する。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の校地、各種施設(各教室及び実験・実習室、演習室、研究室、運動場、図書館など)は、高等専門学校設置基準の第6章「施設および設備等」の条件をほぼ満足している。平成12年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に施設・設備の整備・充実が図られ、授業環境改善のための全教室へのビデオ付きテレビとエアコンの設置、総合情報センターの設備更新、機械実習工場への最新鋭の数值制御工作機械などの設置、マルチメディア教室の整備などが進められてきた。平成14年度の施設整備計画委員会において、全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査が行われ、概ね有効な利用が図られているといえることが確認された。

また、ギガビットの校内LANが整備され、校内全域から教育および業務サービスを提供する各種サーバをストレスなく利用することが可能となっており、ネットワーク利用の基本ルールのもとに、教育・研究に活発に利用されている。本校ネットワークは、ファイアウォールの設置、ウィルス対応ソフトの普及、ネットワーク管理体制の整備により、必要な情報セキュリティの確保を行っている。学生が利用できる情報端末は、総合情報センター、各科演習室、研究室等に設置され、全学で500台を超えるPCが利用可能となっており、演習、実験、卒業研究等で有効に利用されている。

教育研究に必要な図書、学術雑誌は、本校図書館を中心に整備され、平成17年3月末現在の蔵書数は74,027冊となっており、教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく、社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている。図書以外に、学術専門雑誌13誌、一般及び自然科学雑誌21誌などを購読し、学生が自由に閲覧できるようにしている。また、蔵書のバーコード管理による貸出・返却手続きの効率化、閲覧室の整備、開館時間の延長、オンラインでの蔵書検索サービスの提供など利用環境整備が継続的に行われている。

このように、教育課程に対して十分な施設・設備が整備され、概ね有効活用されている。また、視聴覚資料の整備・活用が十分でない点を除けば、図書館を中心として教育研究に必要な図書、学術雑誌の整備が相応に行われている。